

令和 7 年度

全国学力・学習状況調査の
結果分析と今後の取組

令和 7 年 10 月
大紀町教育委員会

目 次

令和7年度 全国学力・学習状況調査の 結果分析と今後の取組について ······	1
七保小学校の結果分析と今後の取組について ······	2
大宮小学校の結果分析と今後の取組について ······	3
大紀小学校の結果分析と今後の取組について ······	4
大宮中学校の結果分析と今後の取組について ······	5
大紀中学校の結果分析と今後の取組について ······	6

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果分析と今後の取組について

令和7年10月
大紀町教育委員会

本年4月17日に「全国学力・学習状況調査」が、実施されました。小学校第6学年及び中学校第3学年を対象にして行われ、その結果が、7月に文部科学省から公表されました。

大紀町教育委員会では、各校の代表者等で組織する大紀町学力向上推進委員会を設置し、町内の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析するとともに、教育施策の成果と課題を検証して、その改善を図っています。また、各校においても調査結果を受けて授業改善を進めるとともに、児童生徒の実態に応じた、実効性の高い教育活動を模索し、取り組んでいるところです。学力の定着と向上には、ご家庭ならびに地域の皆様の協力が不可欠です。各校の分析結果を「強み」「弱み」として表すとともに、改善に向けた方策や皆様方にお願いしたい事項をまとめましたので、ご協力くださいますようお願いします。

(1) 教科に関する調査結果から

①小学校について

どの教科においても大紀町の正答率は全国平均を上回りました。とりわけ、経年的な課題であった記述式の問題について改善が見られており、思考・判断・表現する力がついてきていると考えられます。一方で、目的に応じて必要な情報を見つけることや、答えに至るまでの考え方や方法を自分の言葉で説明することに課題が見られました。

②中学校について

どの教科においても大紀町の正答率は全国平均を上回りました。基本的な学力の定着が見られたことに加え、記述式の問題についても改善が見られ、自分の考えを題意に合わせて伝える力が身に付いていていると考えられます。一方で、文章の内容や意味に合った漢字を書く（選ぶ）ことや、問題解決の方法を数学的に説明する力に課題が見られました。

(2) 質問紙調査の結果から

文科省の調査によると、全国的にスマートフォンやテレビゲームの使用時間が長くなっている一方で、学校外での勉強時間が短くなっています。大紀町でも、家庭学習時間が平日・休日ともに短い傾向が見られました。今後も、学校と家庭が連携し、子どもたちの学習習慣を確立できるように努めます。

大紀町の子どもたちは「ウェルビーイング」が高い状態にある子が多い傾向が見られました。三重県がウェルビーイングの要素として挙げている「友達や周りの人の考えを大切にして、協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」等の質問に対して、いずれも肯定的な回答が多く見られました。今後も子どもたちが自分らしく、安心して、いきいきと生活できるよう家庭・地域・学校が一体となって、「褒める」「認める」「励ます」かかわりを続けていくように努めます。

七保小学校の結果分析と今後の取組について

(1) 教科に関する調査結果から

①国語科について

【強み】・目的や意図に応じて、話題を決め、材料を分類・関係付けし、伝え合う内容を検討すること

・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと

【弱み】・目標に応じて、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付けること

・情報と情報との関係、図等による語句と語句との関係を理解し、表すこと

②算数科について

【強み】・簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶこと

・「10%増量」の意味について、増量後の量が増量前の何倍かを表すこと

【弱み】・分数の加法について、加数と被加数を、共通する単位分数で説明すること

・台形の意味・性質の理解や、多角形の面積を基本図形の分割で求めること

③理科について

【強み】・水の蒸発について、温度による水の状態の変化を理解すること

・電磁石の強さについて、巻き数によって変化すると理解すること

【弱み】・身の回りの金属には、電気を通す物、磁石に付く物があると理解すること

・電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現すること

(2) 質問紙調査の結果から

【強み】・人が困っているときは、進んで助ける。

・話し合う活動を通じて、考えを深めたり、新たな考えに気付いたりする。

【弱み】・「自分にはよいところがある」について、肯定的でない児童が約2割いる。

・平日、1日あたりの勉強時間が1時間に満たない児童が5割いる。

(3) 全体を通して

本校では、「めあて」を子ども中心に立て、終末に「ふりかえり」を行う、主体的に学ぶ授業づくりを進めています。また、「七保っ子補充学習」で本校独自の系統的な算数プリントを繰り返したり、家庭学習で自主学習を充実したりして、基礎的な学力が定着しています。調査結果は、取組の成果から、各教科とも全国平均や県平均を大きく上回っています。質問紙調査では、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表している」「自分と違う意見について考えるのが楽しい」等で肯定的な回答が高く、学ぶ意義を自覚するとともに、学び方が身に付いています。タブレット活用においても肯定的な回答が高く、5年生までに必然性をもって活用できています。

(4) 家庭や地域へのお願い

本校では、学校教育目標「心やさしく 考え、動く ~自立と共生~」を掲げ、主体的に考え、判断し、行動する力（自立する力）、相手の立場に立って協働する力（共生する力）の育成に努めています。質問紙調査では、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」「人の役に立つ人間になりたい」「友だち関係に満足している」「いじめは、どんな理由があってもいい」等の質問について、全児童が肯定的な回答でした。自己肯定感や、自立する力、共生する力が育まれているのは、家庭や地域のご理解、ご協力によるところが大きいと考えます。県内でも課題とされる、テレビゲーム・スマホ等の家庭ルールの徹底、家庭学習の充実、読書活動の推進を始め、本校の教育活動へのご支援を引き続きお願いします。

大宮小学校の結果分析と今後の取組について

(1) 教科に関する調査結果から

①国語科について

【強み】・目標に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること

・漢字を文の中で正しく使うこと

【弱み】・事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること

②算数科について

【強み】・平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図すること

・問題場面の数量の関係を簡潔に表現したり、式の意味を読み取ったりすること

【弱み】・分数の意味や表現に着目し、計算の仕方を考えること

③理科について

【強み】・植物の発芽、成長及び結実の様子に着目して観察、実験などに関する技術を身に着けること

・電磁石の強さは、導線の巻き数によって変化すると理解すること

【弱み】・身の回りの金属には、電気を通す物、磁石に付く物があると理解すること

(2) 質問紙調査の結果から

【強み】・学習内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。

【弱み】・休日など学校が休みの日に学習時間が少ない。

(3) 全体を通して

本校では、「主体的に活動する子どもの育成」をめざし、授業改善に取り組んでいます。子どもの姿を出発点に、子どもたちが主体的に学習に取り組める手立てを考え、課題解決の見通しがもてる「めあて」の設定や「分かった」「解決できた」という達成感を大切した授業に取り組んでいます。この取組の成果として、調査結果は、各教科とも学力が全国平均や県平均を上回っていました。質問紙調査でも、「授業がよくわかる」「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方には気が付いたりすることができる」と思える子どもが増えてきました。

調査結果を踏まえ、引き続き、子どもたちの「強み」を伸ばし「弱み」を克服するため授業改善に取り組んでいきます。

(4) 家庭や地域へのお願い

質問紙調査では、「自分には良いところがあると思う」「学校に行くのが楽しいと思う」「普段の生活の中で幸せな気持ちになる」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「人が困っているときは進んで助ける」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」等の質問に対して全児童が肯定的な回答をしていました。このことから地域・保護者の皆さん方が、学校教育に理解を示し、子どもたちを支えてくださっているおかげで、高い人権意識と幸福感をもって楽しく学校で学ぶことができていることがわかります。課題である「家庭学習の充実」、「読書活動の推進」、「テレビゲーム・スマホ等の家庭ルールの徹底」について、学校より配付された「家庭学習の手引き」を活用していただき、子どもたちへのご支援をよろしくお願いします。

大紀小学校の結果分析と今後の取組について

(1) 教科に関する調査結果から

①国語科について

【強み】・説明や理由として適切なものを選択するなど、文章を読み取り自分の考えがもてるのこと

【弱み】・「あつい」などの同音異義語を文意に合った漢字に書き直すこと
・資料を活用し必要な情報を見つけ、目的に応じた文章表現をすること

②算数科について

【強み】・小数や分数などの四則演算やコンパスを用いた作図など、基礎知識や技能が定着していること

【弱み】・通分の意味など概念の理解が定着しきれていないこと
・二つの数量関係の問題において、必要な要素に着目し記述説明を行うこと

③理科について

【強み】・実験結果から理由を選択したり、直列つなぎの知識を活用したりするなど基礎知識が定着していること

【弱み】・電気を通すものの性質や、水が氷に変わる温度などの根拠をもとにして説明するなど、概念的な理解を基にして回答すること

(2) 質問紙調査の結果から

【強み】・「学校に行くのが楽しい」「友だち関係に満足している」の割合が9割超であること。

【弱み】・学校外での読書や、家庭学習などの自主的な学びの機会が、県や国と比較して少ない傾向が見受けられること。

(3) 全体を通して

小学校の統合という大きな環境の変化がありましたが、児童は、友だち関係に満足している割合が高く、自然と溶け込んでいる様子が見受けられます。学習面では、基礎知識・技能の定着が図られ、自分の考えをもつことはできていると思われます。一方で、基礎知識の活用や、問われていることや相手の立場に立った場合の思考に関して弱さが見受けられます。これは、概念の理解が弱く、自分の考えに根拠を明確に持てていないことが要因ではないかと考えています。引き続き、対話的な学びで、多様な思考に触れ、根拠を基にした見方・考え方の違いに気づき、自分の学びをさらに深めていくことへ意識を向けるよう取り組んでいきます。

(4) 家庭や地域へのお願い

学校では、「対話で気づく きょうどう（協働・協同）できる 生きやすさを考える」そんな子ども像を目指し、互いの持ち味・互いの成長を伝え合うことを意識し、日々活動に取り組んでいます。新聞や本を読むことも、多様な思考と対話していると考え、大切な機会であると考えています。昨今、家庭学習の充実など、子ども自身が課題を見いだし、解決していくこうとする力の育成が求められています。家庭におきましても、「どうしてそう考えたの？」など対話によって子どもたちの興味関心を高めてあげてください。特に、取り組んでいる過程や子どもたちの変容を具体的な言葉で褒めてあげてください。

大宮中学校の結果分析と今後の取組について

(1) 教科に関する調査から

①国語科について

- 【強み】・文章の要約を説明する事柄を選択できること。
・心情や情景等の描写から読み取れることを選択できること。
- 【弱み】・学習した漢字、語句、文法の知識を日常生活に生かせていないこと。
・慣用句や諺、漢語や外来語の語彙力が低いこと。

②数学科について

- 【強み】・基本的な事柄については身についている生徒が多いこと。
・データ処理の分野は、比較的解ける生徒が多いこと。
- 【弱み】・ある事柄について成り立つ理由を証明すること。
・式やグラフを用いて条件に合うように説明すること。

③理科について

- 【強み】・基本的な知識については身についている生徒が多いこと。
・図やモデルの基本的な読み取りは比較的できる生徒が多いこと。
- 【弱み】・問題文から必要な条件を読み取り、身につけた知識を活用すること。
・計算を伴う電気回路の知識理解の定着が弱い生徒が多いこと。

(2) 質問紙調査の結果から

- 【強み】・「学校に行くのは楽しい」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある」と思う生徒の割合が高い。
・国語、数学、理科の授業が「将来社会に出たときに役に立つ」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答する生徒の割合が高い。
- 【弱み】・「将来の夢や目標を持つこと」「新聞を読むこと」についての割合が低い。
・平日の1日あたりのゲーム時間が4時間以上の割合が高い。

(3) 全体を通して

生徒は、心身ともに健康で学校生活の満足度が高いと感じており、落ち着いた環境の中で授業に参加できています。子どもにとって多くの時間を過ごす学校は魅力があり、安心して過ごせる環境であると感じている生徒が多いともいえます。

これからも基礎・基本を重視した授業改善や一人ひとりが認められる仲間づくりに取り組み、より地域や社会とかかわって、将来の夢や仕事について考えさせる指導を充実させることで、更なる学力向上に努めています。

(4) 家庭や地域へのお願い

学習以外でもスマートフォンや一人一台端末等を使用する機会は増加していますので、正しく安全に利用するための家庭内でのルール等を再確認してください。また、家庭学習の習慣化を図っておりますので、見守りをお願いします。

大宮中学校は、一人ひとりのウェルビーイングの向上を目指して、今後も生徒の可能性やよさを引き出し伸ばしていく取組を継続していきたいと考えておりますので、ご家庭や地域でもご協力をお願いします。

大紀中学校の結果分析と今後の取組について

(1) 教科に関する調査結果から

①国語科について

- 【強み】
・表現の効果について、根拠を明確にして考えることができること
・文章全体と部分との関係に注意しながら登場人物の設定の仕方を捉えることができる
- 【弱み】
・資料や機器を用いて自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること
・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること

②数学科について

- 【強み】
・不確定な事象について、判断理由を数学的な表現を用いて説明することができる
こと
・必ず起る事柄の確率について、理解していること
- 【弱み】
・素数の意味を理解すること
・相対度数の意味を理解すること

③理科について

- 【強み】
・収集した資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いていること
・気体の性質に関する知識が概念として身に付いていること
- 【弱み】
・条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明すること
・探究の過程の見通しについて分析して解釈すること

(2) 質問紙調査の結果から

- 【強み】
・いじめはどんな理由があってもいけないと考える生徒の割合が高い。
・人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒の割合が高い。
・毎日朝食を摂るなど、基本的な生活習慣が身についている生徒が多い。
- 【弱み】
・学校以外での勉強時間が短い。
・勉強のためにＩＣＴ機器を利用する割合が低い。

(3) 全体を通して

基本的な生活習慣が確立し規範意識も高く、地域や人の役に立ちたいと思っている生徒の割合が高いです。また、落ち着いた授業態度で学習に取り組むことができており、学習意欲も大変高いです。

学習面においては、相手にわかりやすく表現したり、説明したりすることに課題がみられます。今後、全ての授業を通してそれらを育む指導に重点をおいて取り組んでいきたいと考えます。具体的には、基礎基本を大切にすること、互いの考えがうまく伝わるための工夫をすること、ＩＣＴ機器を効果的に活用することなどで、表現する力や説明する力をのばしていきたいと考えます。

(4) 家庭や地域へのお願い

家庭学習の時間が少ないことが、課題です。理由として、ＳＮＳ等に費やす時間が長いことが考えられます。スマートフォン等の適切な使用について、ご家庭でルール作り等をしていただければ幸いです。

また、自己肯定感を持ち、気持ちのよいあいさつができる生徒が増えています。今後も、ご家庭での励ましや見守りをお願いいたします。